

各関係機関長 様

佐賀県農業技術防除センター所長

## イチゴ育苗圃における炭疽病、疫病、萎黄病の防除対策について

### －育苗期の防除を徹底しましょう－

イチゴ炭疽病、疫病、萎黄病は、降雨時に感染、発病した親株から孢子などを飛散させ子苗に伝染します。本年6月の佐賀市における降水量は579mmであり、平年(339mm)に比べ多く(171%)、また、気象予報によれば、7月の降水量は平年に比べやや多いと予想されていることから、圃場によっては、これら病原菌の飛散が多くなると予想されます。

については、健全苗の育成による本圃での安定生産を行うため、下記を参考に、育苗圃での防除対策を徹底してください。

#### 記

#### 1. 発生状況

当センターが6月下旬に実施したイチゴ親株の巡回調査(県内12圃場)では、炭疽病、疫病、萎黄病の発生は認められなかったが、5月下旬～6月末に現地から当センターへ**診断の依頼**があった親株の生育不良、萎凋症状等(5件)の原因を調べた結果、**炭疽病(2件)、疫病(1件)、萎黄病(1件)の発生が確認**された。

現在までにこれら病害の子苗での発生は確認していないが、今後とも降雨が多い条件が継続すれば、**感染、発病親株から子苗への伝染が拡大**し、苗での被害を生じる恐れがある。



炭疽病による親株の萎凋症状

表1 イチゴの病害虫診断状況(5月下旬～6月下旬、農業技術防除センター)

診断依頼日	イチゴ区分	診断結果
5月20日	親株	疫病
6月6日	親株	炭疽病
6月17日	親株	萎黄病
6月21日	親株	炭疽病
6月21日	親株	生理障害等(病害虫によるものではない)

#### 2. 防除対策

##### 1) 耕種の防除

- (1) **発病株や発病が疑われる親株及び苗は早急に除去し、圃場外に持ち出す**。なお、親株から発生しているランナー、子苗も同時に持ち出す。
- (2) 持ち出した株等は、圃場及び周囲に放置せず、土中に埋めるか肥料袋に入れて密閉処理する。

(3)傷口からの感染を防ぐため、摘葉、採苗等の作業は晴天時に行い、作業終了後は薬剤防除を行う。

(4)降雨による伝染を抑えるため、ビニル雨よけを行う。

(5)灌水による病原菌の飛散を抑えるため、灌水には水滴が小さい装置を用いる。また、過灌水や夕方の灌水(水滴が乾きにくい)は感染を助長するため避ける。

(6)親株は必要な苗数が確保でき次第、すみやかに除去する。

(7)苗は十分な間隔を置いて並べ、過密条件としない。

## 2) 薬剤防除

(1)育苗期間を通じ、表2~4を参考に別系統の薬剤でローテーション散布を行う。

(2)炭疽病の防除において、ゲッター水和剤及びセイビアーフロアブル20に対する耐性菌の発生を防ぐため、育苗期間の両剤の使用回数は各3回以内にとどめる。

(3)防除薬剤の詳細については、県病害虫防除のてびき193~198頁を参照する。

表2 イチゴ炭疽病の主な防除薬剤

系統	薬剤名	希釈濃度(倍)	使用時期	使用回数	備考
①	アントラコール顆粒水和剤	500	仮植栽培期	6回以内	150~300L/10a
	ジマンダイセン水和剤	600	仮植栽培期(但し収穫76日前まで)	6回以内	100~300L/10a
②	デランフロアブル	1,000	育苗期	2回以内	100~300L/10a
③	オキシンドー水和剤80	1,000	育苗期	3回以内	100~300L/10a
	キノドーフロアブル	100 500~800	育苗期	3回以内	5ml/株 クラウン部散布 100~300L/10a
④	ベルコート水和剤	1,000	育苗期(定植前)	5回以内	200~300L/10a
⑤+⑥	ゲッター水和剤	1,000	収穫開始21日前まで	3回以内	100~300L/10a
⑦	セイビアーフロアブル20	1,000	収穫前日まで	3回以内	100~300L/10a
⑧	オーソサイド水和剤80	800	収穫30日前まで	3回以内	100~300L/10a

系統番号 ①ジチオカーバメート ②キノン系 ③有機銅  
④グアニジン系 ⑤ベンズイミダゾール系 ⑥N-フェニルカーバメート系  
⑦フェニルピロール系 ⑧フタルイミド系

表3 イチゴ疫病の育苗期の主な防除薬剤

系統	薬剤名	希釈濃度(倍)	使用時期	使用回数	備考
①+⑨	リドミルゴールドMZ	1,000	育苗期	3回以内	50ml/株 200~400L/10a
⑩	ランマンフロアブル	500~1,000	育苗期	2回以内	50ml/株 土壌灌注
	オラクル顆粒水和剤	2,000~3,000	育苗期	3回以内	50ml/株 土壌灌注

系統番号 ①ジチオカーバメート ⑨フェニルアミド系 ⑩Qii剤

表4 イチゴ萎黄病の育苗期の主な防除薬剤

系統	薬剤名	希釈濃度(倍)	使用時期	使用回数	備考
ベンズイミダゾール系	ベンレート水和剤	500	仮植前	1回	1~3時間苗根部浸漬
			育苗期	3回以内	50~100ml/株 灌注
			本圃定植後但し、収穫30日前まで	1回	100ml/株 灌注
	トブジンM水和剤	300~500	仮植前	3回以内	1時間苗根部浸漬
		仮植時及び仮植栽培期間	1㎡当たり3L灌注		